



PR動画プロジェクト「私たちが被災地に通り続ける理由」

2月6日（水）から10日（日）にかけて、イオンモール多摩平の森にて、～第5回 大学生ボランティア活動報告会&イベント～被災地と多摩地域の架け橋「大学生はなぜ、被災地に通り続けるのか？」が開催され、「パネル展」や「物産展」、「防災ワークショップ」、「PR動画プロジェクト 動画上映会&トークセッション」が行われました。

本イベントは、震災の教訓や被災地の今を伝えることで、地域の防災・減災意識を高めていくことを目的として、毎年開催されています。

本学からは、ボランティアセンターの学内登録団体である「東日本きずなプロジェクト」の学生が『PR動画プロジェクト』に参加し、動画の制作に取り組みました。「パネル展」では、「東日本きずなプロジェクト」の展示に加え、ボランティアセンターの取組として、「釜石ラグビー2019応援プロジェクト」の写真展示も行いました。

・PR動画プロジェクト

今回、新たに立ち上げた『PR動画プロジェクト』では、自分たちの目に映る被災地の今や活動を続ける思いをより多くの人に伝え、関心をもってもらうと、学生自身が自分たちの活動をもとにしたPR動画の制作に取り組みました。制作する動画のテーマは、「私たちが被災地に通り続ける理由」です。

団体設立のきっかけとなった東日本大震災から8年が経とうとしている今でも「東日本きずなプロジェクト」は、主な活動場所である岩手県上閉伊郡大槌町に通り続けています。早慶の学生が中心となって立ち上げたという背景もあり、現在の所属メンバーに設立当初の思いを知る学生はいませんが、OB・OGに話を聞いたり、団体内でそれぞれの思いを共有したりしながら動画を制作していました。

・PR動画上映会

10日（日）に開催されたPR動画上映会では、PR動画の上映に加え、各団体の代表者が制作したPR動画への思いを話しました。以下は、「東日本きずなプロジェクト」代表の伊崎直志さんの言葉です。「復興へ向けて変化している大槌町の今をどのように表現すればいいのかとても悩んだ。（中略）震災ボランティアというワードから想起されるような何かお手伝いをするということよりは、訪れた土地やそこで知り合った人を大切にしていきたいという思いが私たちが被災地に向かわせているのだと思う」

事前に用意していた80の座席が足りなくなるほど多くの方々にご来場いただき、PR動画や学生の言葉に対して、拍手や励ましの言葉が贈られました。

・トークセッション+被災地とのLIVE中継

PR動画上映会の後に行った「トークセッション」では、学生が被災地で活動することの意義や復興支援活動の今後について話し合いました。さらに、登壇した学生に加えて、LIVE中継を通して、日頃、登壇した学生と活動を共にしている現地の方々にもご出演いただいたことで、「学生の活動を受け入れる立場」からのお話しをお聞きすることができ、それぞれの視点から見た復興の未来像を共有することができました。

・「ワールドカフェ」

イベント終了後には、登壇者以外の学生も参加し、ワールドカフェ方式でそれぞれの「被災地に通り続ける理由」を話し合いました。被災地復興支援活動という同じ名目で活動していたとしても、各大学・団体ごとに活動場所や内容は異なります。しかし、活動の課題や悩みについて、多くの共通点が見つかったようで、お互いに情報交換をしながら、課題解決に向けて真剣に話し合っている姿が印象的でした。

学内登録団体 「東日本きずなプロジェクト」



第5回 大学生ボランティア活動報告会&イベント

被災地と多摩地域の架け橋

「大学生はなぜ、被災地に
通り続けるのか？」

報告

2019/02/06-10



トークセッションの様子



ワールドカフェの様子



集合写真

▼ PR動画を公開中 ▼



ボラネット多摩

検索

